

1stシミュのおさらい

文責：中野敦子

1st シミュで行われたことや決まったことの要旨です。公式発言と WP の詳細な内容は議事録に書いてありますので、そちらを参照して下さい。

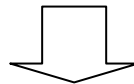
1stシミュ 5月31日 14:00~16:00

公式発言を行った大使…日本、バングラデシュ、アゼルバイジャン

WP を提出した大使…ジンバブエ、アフガニスタン、コートジボワール、スイス、ドイツ、USA①②、UK、WaterAid

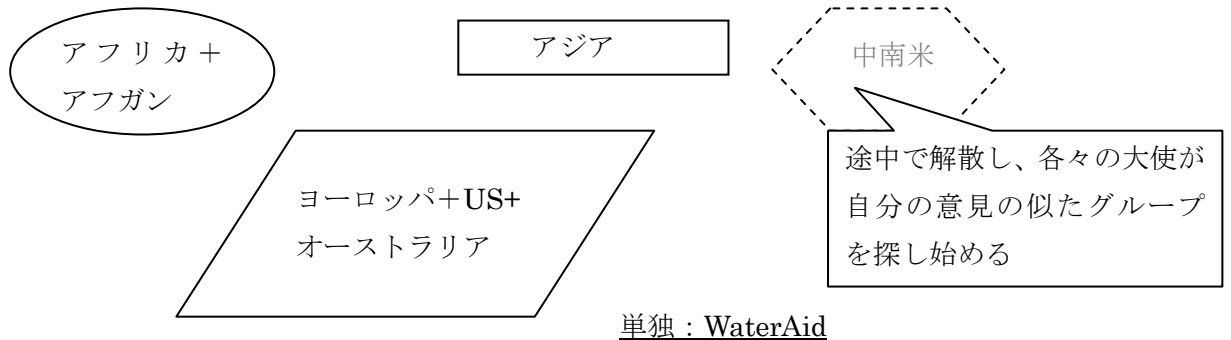
ポイント① ~まず議論したいトピックの洗い出しを行うことが決定された~

- ・会議のはじめの方に、インフォーマル¹が取られて【議論の為の議論²】が行われた。
 - 議論したいトピック（=論点よりも細かいもの。例：基本的衛生施設普及の為の資金確保）を、各大使が挙げ、それらを鑑みて今後そこから議論するトピックを決定することが合意された。



その後、コーカスが取られて…

地域別で集まって仮グループが形成され、議論したいトピックを各大使が述べた



その後インフォーマルが取られ、コーカスで行った議論の内容が議場全体で共有された（下記）

ヨーロッパ（グループリーダー：UK@松田彬）

¹ 座ったまま大使が自由に発言出来る非公式討議。コーカスでグループ内で議論されたことを議場全体で共有するために使われることも多い。詳細は WaterAid 代表が作成して下さい WP②を参照願いたい
² 会議の Time Table など、議論をどのように行うかを決めるための議論のこと。会議のはじめの方で行われる。

- ・途上国のグッドガバナンス必要
- ・国際衛生基金の改善
- ・衛生教育・啓発の促進
- ・モニタリングの促進
- ・途上国が PRSP（衛生に特化したもの）を出すことを求める

アフリカグループ（グループリーダー：ジンバブエ@前岡潤一）

- ・他に開発していくべき優先事項があって、衛生面の改善どころではない
- ・先進国から、資金援助と技術支援を求めたい
- ・途上国のオーナーシップを尊重してほしい
- ・固有の文化への配慮をしてほしい
- ・教育への支援を求めたい
- ・モニタリング³の議論の必要性を感じない

アジア（グループリーダー：ヴェトナム@辻野淳哉）

- ・国家が率先するオーナーシップが重要である。
- ・内政干渉をしてほしくない
- ・MDG sにとられない支援の必要性
- ・MDG sの達成の為の支援の必要性
- ・2015年以降の支援についての枠組みについて議論したい（特に基金）
- ・南南協力
- ・モニタリングには反対

中南米（グループリーダー：ブラジル@谷千明）

- ・各国のスタンスが異なり、途中で解散した
- ・各自意見が似ているグループに入ることとなった

ポイント② ～メール交渉と 2nd シミュで最低限何を行うかが決定された～

メール交渉の目的…自分が 1st シミュで参加していた地域グループの各々の大使の意見を聞き、「自分の意見とあったグループかどうか」を見極めること。

³上手くいっているかどうか チェックすること。この場合は、先進国や国際機関から途上国へ行われた援助が効率的に有効利用されているかどうか、援助側が被援助側をチェックすることを指す。このことは、途上国の国内事情を監視することとなり、内政干渉を引き起こす可能性がある。

2nd シミュまでに最低限行うこと

各地域グループ（仮）で出た、意見とその根拠をまとめる

→2nd 冒頭で WP として配布

- 注1) この意見と根拠とは、各グループで合意されたものではなく、あくまで各大使の意見の列挙にすぎない。
- 注2) これ以上発展的なこと（DR を作成するなど）をするかどうかは各グループ（仮）の判断にゆだねられる。
- 注3) グループの再編成もメール交渉で行って良い
- 注4) かならずメールの CC にディレクと議長のアドレスを入れなければならない